

# 矢作川流域圏懇談会通信

R1 山部会編 vol.5



発行日：令和2年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第11回山部会まとめの会を開催しました！

今回は、懇談会設立10年の山部会のふりかえりを行うとともに、次年度の活動目標について議論しました。ふりかえりの一つ目として、蔵治座長より、山部会の設立時からの歩みを整理いただきました。その上で、当時の課題に対する進捗状況について情報提供をいただきました。つづいて、丹羽副座長より山村ミーティングの進捗状況と森づくりガイドラインの果たす役割についてご提案いただきました。これらの話題提供をふまえ、次年度の活動目標について話し合いました。最後に、愛知・川の会の近藤事務局長より、22世紀奈佐の浜プロジェクトの近況（担い手づくり）をお話いただきました。



日時：令和2年1月28日（火） 13:00~17:00

場所：豊田市職員会館第一会議室 参加者：19名 ※事務局を含む

## ◆主な会議内容

### 1. 10年のふりかえりと今後の活動について（話題提供①：蔵治光一郎座長）

蔵治光一郎会座長により、10年誌に掲載する山部会のふりかえりをご紹介いただくとともに、これまでに得たこと、依然として課題に残ること、今後の展望を整理いただきました。主な内容を以下に示します。

- 河川整備計画を策定（平成21年7月）するにあたり、上下流のさまざまなメンバーが集まって組織された団体である。
- 河川整備計画策定の1年後にこの矢作川流域圏懇談会が設立され、当初は市民会議の中に山部会があった。
- 山の問題は、山に生活拠点を置かない人（流域市民・学識者・行政機関）の意識の違いである。それをいかに共有することができるか、これが課題だと意見交換を行った。そこで、議論を重ね『出発点「矢作川の恵みで起きる」の共有を』を策定した。「山と山村」「森林」に関する課題を抽出し、望ましい未来のために「山村再生担い手づくり事例集」「山村ミーティング」「森づくりガイドライン」「木づかいガイドライン」の4つの柱で議論を重ねてきた。
- しかし、課題解決にはほど遠いと感じている。これまでの議論により「相互信頼関係に基づく人間関係」は蓄積されてきた。今後は、流域に生きる人々が、お互いのライフスタイルに共感し、リスペクトしながら連携することだと感じている。このようなことを目的とするならば、山部会は益々重要な役割を担うと考えている。

### 2. 山村ミーティングの進捗状況と新たな提案について（話題提供②：丹羽健司副座長）

丹羽副座長より、矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングの進捗状況と今後の取り組みの提案をいただきました。主な内容は以下の通りです。

- 森の健康診断は、矢作川流域の人工林の豊かさや荒廃の実態を科学的に調べる（都市住民、山村住民、森林ボランティア、研究者、行政職員の連携）ことを目的としていた。今度は、山の森林で働く担い手たちの高い志や落胆の実態を調べることで、より健全な森づくりを心地よく進められる労働環境づくりに資することができると考えている。
- 林業就業者の若年者率は増加しているのに、中堅林業技術者が離職しているため、全体の従事者数は減少している。
- 森の健康診断から人工林の6~7割は不健康なのに、整備する従事者がいなければ、健全な森林は維持されない。
- 中堅林業技術者の離職原因は、危険な職業である一方、所得が低いことにある。
- 上記の対策として、「業界内交流と連携から始まる地域林業の再生」「現場林業技術者と市民が協働することによる森づくりガイドラインの作成」があげられる（課題解決のテーマの一つとなっている「森づくりガイドライン」との協働）。

### 3. 10年誌編集委員会の活動状況について

10年誌編集委員会の洲崎編集員に、現在の進捗状況を説明いただきました。主な内容は以下の通りです。

- 2月の全体会議ではパイロット版（試作品）を公開し、8月末ごろに完成版を発行する予定である。
- 構成としては「はじめに：流域圏懇談会とは」「第1章：流域圏懇談会の10年の歩み（組織図、流域図、活動年表、各部会のふりかえり）」「第2章：流域圏担い手づくり事例集の成果」「第3章：想いの源流を探るためのキーパーソンヒアリングの結果」「第4章：新たな10年へ」を予定している。

### 4. 22世紀奈佐の浜プロジェクトについて（話題提供③：愛知・川の会 近藤朗事務局長）

奈佐の浜プロジェクトは、伊勢湾地域を発生源とする流下ごみに対し、その改善手法を検討する目的で、今から8年前に設立された。当初は、流下ごみの現状を把握するため、愛知岐阜三重のさまざまな場所をまわった。2012年からの8年間に16回の現地活動を行い、のべ4000人にご参加いただいた。今年度は長良川100名と奈佐の浜200名のイベントを行った。最近では、次世代の担い手を育成する場と考えており、参加者のうち半分以上を大学生以下の若者が占めている状況である。また、現在では拾い集めることのできないマイクロプラスチックの問題にも取り組んでいる。2020年は長良川国際会議場で全国大会（8月8~9日）を実施する予定である。是非、流域圏懇談会の関係者にもご参加いただきたいと考えている。

## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●10年のふりかえりと今後の活動

- ・10年のふりかえりを拝見したが、懇談会の原点が的確に示されており、途中から入会した自分にとって、非常にわかりやすいものであった。(山本)
- ・私が研究フィールドとしているモンゴルでも、遊牧民が都市で生活するようになり、山部会と同じような光景がみられる。一方で、ドイツは自然破壊からの再生を経験し、人工的な森の中で世代を超えた人々が共有している。まさに、先ほど今村さんが言われた子どもたちへの教育の場、交流の場、体験の場にしたいという意向に近いと思われ、流域圏の未来の持続可能性を考えるうえで、非常に重要な位置づけになると感じた。(城田)
- ・東海豪雨では、流木がダムを乗り越えず止まったが、もし越流していたらどうなったか。(今村)
  - ▶ おそらく、下流側の中部電力のダムは、オーバーフローしていたと思われる。宮川では、台風によって21,000m<sup>3</sup>の流木が三瀬谷ダムを乗り越えて、伊勢湾に流出したことがある。その流木は知多半島まで達した。(蔵治)

### ●矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングの進捗状況と新たな提案

- ・矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングの調査結果の活用方法としては、OJTを一つの森林組合とする必要はないということ。例えば、架線の特異な恵南森林組合、人材交流の盛んな岡崎森林組合、森づくり会議など先進的な動きのある豊田森林組合とか、英知を集めて議論をすればヒヤリングの成果が活かせるのではと思う。(今村)
- ・恵那農林事務所の管内でも、中堅林業技術者の離職で頭を抱えている。給料の問題は最も大きい要因だ。また、家庭を持つと、家族から安全な仕事に就くよう説得され、離職をするケースがみられる。(小島)
  - ▶ サッカー界で選手のレンタルが行われているが、森林組合にも導入できれば素敵だと思う。もっと気楽に流動していく、流通していく、いろいろなものを受け入れて、自ら仲介できるようなものがないのか、これはまさに最初にめざした山村ミーティングだと思う。(丹羽)
- ・組合長として、ヒヤリング結果を重く受け止めている。組合の経営も苦しいが、最近少し変わってきたと思うのが、職員が自発的に動き、助け合うようになったことだ。やはり、組織の中の輪が大切だとつくづく感じている。(眞木)
- ・このヒヤリング結果を活かすため、森づくりガイドラインに反映することを提案する。(丹羽)

### ●10年誌編集委員会の活動状況

- ・10年誌の完結は次年度という解釈でよいか。(蔵治)
  - ▶ パイロット版を2月の全体会議に配布して、設立10年となる8月に完成版を公開する予定である。(洲崎)
- ・完成版の公開に関しては、各部会を超えた報告の機会があると良いと思う。(洲崎)

### ●22世紀奈佐の浜プロジェクト

- ・東海3県から生じた川ごみは、海流からいってどこに漂着しやすいのか。(今村)
  - ▶ 答志島(奈佐の浜)など、海域が急に狭まった場所で、海流に向かい合った浜である。方角でいうなら北側にたまり、南側には溜まらない。(近藤)
- ・答志島の活動は、地元三重県の助成金を活用させていただいた。岐阜県は、森林環境税のメニューの中に「清流長良川」という項目があり、答志島の活動にも充てることができた。(近藤)
- ・学生が主体的に動くようになったのは素晴らしい。この懇談会も大いに参考にする必要がある。(洲崎)
  - ▶ 学生に主体性を持たせたことで、1年で大きく変わった。この動きは懇談会の次の目標になると思う。(近藤)

### ●他部会に紹介したい事柄と場所について(山部会としての優先順位の検討)

- 第1希望：水源涵養モニタリング調査サイト(放置人工林)、 第2希望：つくラッセル(地域活性化事業)  
第3希望：奥矢作森林塾(移住定住)→矢作ダム(土砂の問題)→三河湾(土砂の問題)



### 今後のスケジュール(予定)

第9回全体会議は、2月25日(火)に岡崎市の西三河総合庁舎で行います。

### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

